

# 宇陀市内における貨客混載社会実験を通じた 奥宇陀わくわくバスの利用促進の 取組みについて

東條 有紀 宇陀市 企画財政部 企画課  
米田 佳弘 奈良交通(株) 自動車事業本部  
ヤマト運輸(株)  
猪井 博登 富山大学都市デザイン学部  
中井 睦 国土交通省 近畿運輸局大阪運輸支局  
川村 俊 奈良県 県土マネジメント部  
山室 良徳 中央復建コンサルタンツ(株) 計画系部門  
榎本 慎也 中央復建コンサルタンツ(株) 計画系部門

## 宇陀地域の概況

場所：奈良県の北東部に位置  
構成自治体：宇陀市、曾爾村、御杖村



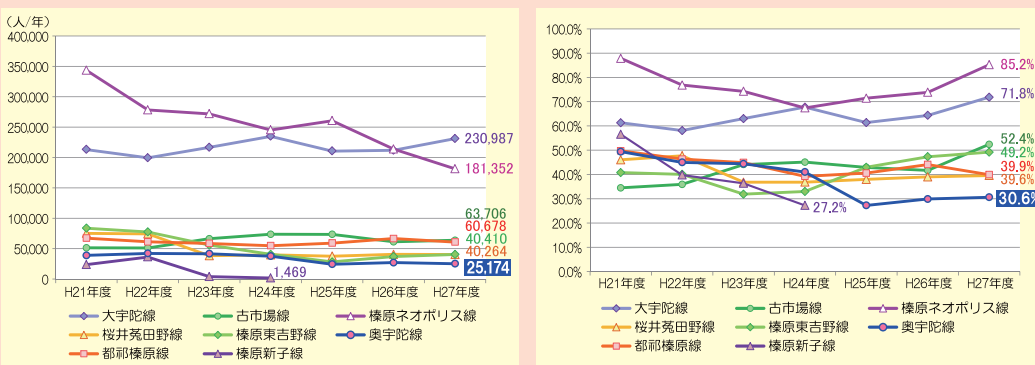
	宇陀地域	宇陀市	曾爾村	御杖村	【参考】 奈良県
面積(km <sup>2</sup> )	374.84	247.50	47.76	79.58	3,690.94
人口(人)	34,413	31,105	1,549	1,759	1,364,316
世帯数(世帯)	12,525	11,155	622	748	530,221
高齢化率(%)	37.9	36.6	44.7	53.9	28.5

※人口・世帯数・高齢化率は平成27年国勢調査



## 取組の背景

- ・奥宇陀線は、宇陀地域の路線バスの中で、年間の利用者数が特に少ないです。
- ・支出に対する収入の割合を示す収支率も、地域内を走る他のバス路線に比べて最も低く、運行の支出の3割ほどしか収入でまかなえていません。
- ・収支率改善のための取組みの一環として、奥宇陀線は平成29年10月に3市村連携コミュニティバスとして、運行形態を改善して、運行を継続することとなりました。
- ・しかしながら、運行形態の改善のみでは、収支率の抜本的な改善につながらないことから、新たな収益の獲得を図る必要があります。



奥宇陀わくわくバスの収支改善のため、人とモノ(宅配便の荷物)を一緒に運ぶ貨客混載の社会実験を実施

## 取組の概要

### ◆貨客混載社会実験実施前の問題意識

	問題認識
バス事業者	利用者数減少による収支率の低迷
宅配事業者	都市部より荷物量の密度が低い上、走行距離が長いことによる生産性の低さ、空送時間が長く、非効率的な移動

### ◆貨客混載社会実験の実施

実施期間	平成29年10月2日(月)～平成30年2月28日(水) ※平日・土曜日のみに実施
対象のダイヤ	13:58発 14:47着 14:53着 榛原駅 → 掛西口 → 曾爾村役場 (積み降ろし)
社会実験中の現地対応	利用者への広報 利用者へのヒアリング調査



社会実験の出発セレモニーの様子



車内に積み込んでいる荷物の様子



掛西口での積み替えの様子

## 利用者への広報

- ◆チラシ、ポスター、広報誌、関係機関HP、各種メディアを通じて、実施背景や実施概要を広報

- ◆バス車体にもマグネットシートを掲示して広報



## 貨客混載のより良いあり方に向けた検討

- ◆貨客混載スペースや荷下ろし場所について

取組み中はバス事業者、宅配事業者、協議会事務局で定期的に集まって、取り組みをより良くするための意見交換会を実施したよ。

バス利用者からの不満の声は聞いていませんが、現場の運転手が掛西口での荷下ろしの際に利用者に迷惑が掛かっているかを気にしています。貨客混載の荷物を置く場所を車両の入り口近くにするか、終点で荷下ろしするのが良いと思います。

現場の宅配スタッフもバス利用者に迷惑が掛からないように気を遣って荷下ろしをしています。終点で利用者が降りてから荷下ろしするほうが落ち着いて作業できます。

平成30年4月からは荷下ろし場所を終点に変更

## 取組みの結果

【利用者の観点】

ほとんどの人が取組みを高く評価してくれているよ。バスの存続のために良いという意見がたくさんあったよ。

今後のあり方としては、他の荷物も運べるよという意見が多いね。

【事業者の観点】

貨客混載での毎月の運賃収入は定期利用者1人分と同じくらいです。ほとんど利用のなかった便に固定客がついたようなイメージです。

休憩時間の確保や、ドライバーの精神負担減になっています。

## 今後の取組みの方向性

(1) 他の物流事業者とも連携した共同輸送の可能性の検討

現状 他物流事業者においても、ドライバーの休憩時間等の確保に関する課題を抱えている可能性

→ 複数の物流事業者が貨客混載で荷物を共同配送できるようになれば、地域全体で物流の効率性向上

方向性 現場の問題点や共同配送の実施に向けて意向・課題等を把握

(2) 農産物等の貨客混載による輸送の可能性の検討

ニーズや拡大の可能性

- ・利用者からは日用品等の荷物も運べるようにしてほしいという意向
- ・曾爾村や御杖村で生産した特産品や農産品等を近隣の道の駅等まで貨客混載を活用して輸送することによる地域活性化の可能性

方向性 地元住民の意向を把握する必要